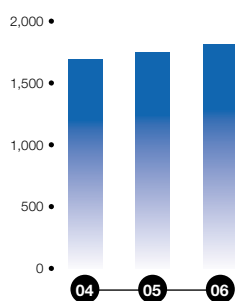


営業の概況

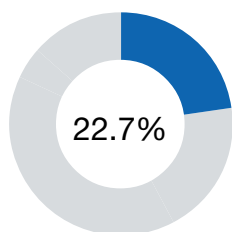
電子素材部品部門

電子材料

売上高推移
(億円)



売上高構成比
2006年3月期



当製品区分は「コンデンサ」、「フェライトコアおよびマグネット」の2つで構成されます。

当製品区分の売上高は、1,807億66百万円(前期1,748億円、前期比3.4%増)となりました。

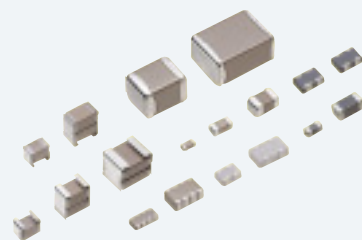
「コンデンサ」:売上高は前期比で微増でした。売価下落と通信市場向けの不振による減収を、カーエレクトロニクス市場向けの製品販売増により吸収したこと、および円安の効果に支えられたことが主な要因です。

「フェライトコアおよびマグネット」:売上高は前期比で増加しました。フェライトコアは、ブラウン管テレビ向けでは減収でしたが、電源用コアの需要拡大による増収があり、売上高はほぼ横ばいとなりました。フェライト磁石は、顧客の在庫調整による需要減がありましたが、カーエレクトロニクス市場向け製品の販売増によるプラス要因もあり、売上高はほぼ横ばいでした。金属磁石はHDD(ハードディスクドライブ)の需要増を背景に、売上高が増加しました。

コンデンサ

電気を蓄える機能を持った回路素子で、セラミックス誘電体と内部電極となる金属とを交互に積層し、焼成したものです。

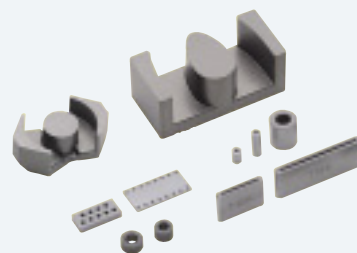
小型で高周波特性が良いため、携帯電話や薄型テレビなどに大量に使用されています。



フェライトコア

酸化鉄にマンガン、ニッケル、亜鉛などを配合して焼結した酸化物系磁性材料です。

高周波での損失が少ないため、電源回路のトランスやコイルなどの磁心に多用されています。



マグネット

当製品は大きくフェライトマグネットと希土類マグネットに分類しています。

フェライトマグネットは、酸化バリウムや酸化鉄を主成分とする原料を成型して焼結したものです。

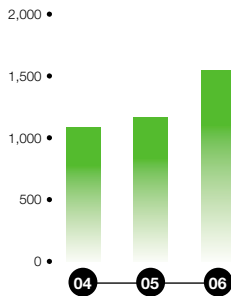
希土類マグネットは、サマリウムやネオジムなどの希土類元素と鉄を主成分とする永久磁石です。



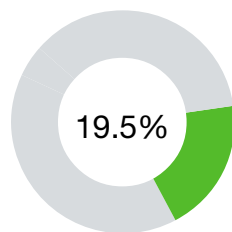
電子素材部品部門

電子デバイス

売上高推移
(億円)



売上高構成比
2006年3月期



当製品区分は「インダクティブ・デバイス」、「高周波部品」および「その他」の3つで構成されます。

当製品区分の売上高は、1,546億80百万円(前期1,163億87百万円、前期比32.9%増)となりました。当製品の増収の要因は、当期下期からラムダパワーグループ(当社が英国インベンシス社から2005年10月1日に買収)が新たに連結対象となったことです。なお、既存事業のみの前期比較でも増収を達成しました。

「インダクティブ・デバイス」:売上高は前期比で増加しました。電源系コイルの売上高が携帯電話、HDD向けで増加したこと、カーエレクトロニクス市場向けの製品販売が増加したことが主な要因です。

「高周波部品」:売上高は前期比で減少しました。無線LAN向け部品の販売売上は増加しましたが、携帯電話向け部品の一部で売価下落が継続していることが主な要因です。

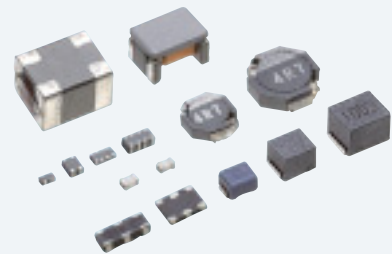
「その他」:売上高は前期比で増加しました。増収の要因は、DC-ACインバータの売上高が液晶パネル向けで伸びたこと、センサ・アクチュエータの売上高がHDDや携帯電話向けで増加したこと等です。ラムダパワーグループの下期6ヶ月間の売上高を「その他」区分に計上していることも、増収の要因のひとつです。

インダクティブ・デバイス

当製品は大きくコイル(インダクタ)、EMC対策部品に分類しています。

コイル(インダクタ)は、フェライトコアに導線をらせん状に巻いた巻線タイプ、印刷工法によってパターン形成した積層タイプのほか、薄膜形成技術によりパターン形成した薄膜タイプがあります。

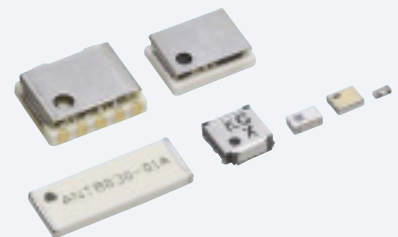
EMCとはElectromagnetic Compatibilityの略で、電子機器から発生する電磁ノイズの問題を解決するための電子部品がEMC対策部品です。



高周波部品

主に携帯電話などの高周波回路に使用される部品です。

アイソレータ、VCO、ダイプレクサなど、多種の製品を取り扱っています。

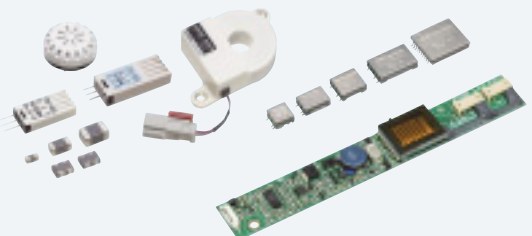


その他

当製品は、大きくパワーシステムズ、センサ・アクチュエータに分類しています。

パワーシステムズには、交流(AC)入力を直流(DC)出力に変換するスイッチング電源、逆に直流入力を交流出力に変換するDC-ACインバータ、直流電圧の昇降圧を行うDC-DCコンバータ、そして交流電圧の昇降を行うトランスがあります。

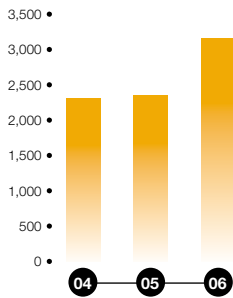
センサ・アクチュエータには、静電気対策に有効なバリスタ、温度・湿度・トナー濃度などを測定するセンサ、圧電ブザーに代表されるアクチュエータが含まれます。



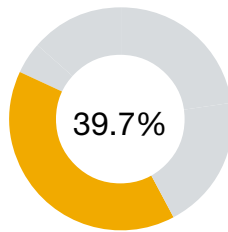
電子素材部品部門

記録デバイス

売上高推移
(億円)



売上高構成比
2006年3月期



当製品区分は「HDD用ヘッド」、「その他ヘッド」の2つで構成されます。

当製品区分の売上高は、3,159億28百万円(前期2,345億78百万円、前期比34.7%増)となりました。

「HDD用ヘッド」:売上高は前期比で増加しました。HDDはPC用途の伸びに加えて、民生用機器への搭載が広がりを見せています。このようなHDD需要の拡大に伴い、HDD用ヘッドの出荷数が増加した結果、売価下落を吸収して売上高が増加しました。

「その他ヘッド」:売上高は前期比で減少しました。光ピックアップの在庫調整が要因です。

HDD用ヘッド

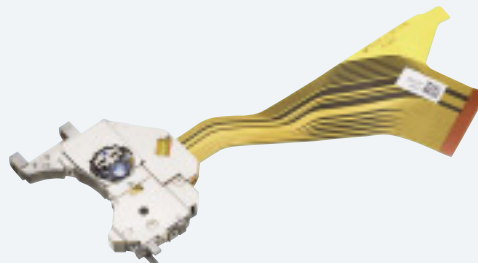
HDD用ヘッドは、HDDにおいて信号をハードディスク(メディア)に書き込んだり読み出したりするものです。

記録密度の向上に伴い、読み出し用のGMR(Giant Magnetoresistive)素子は、より高感度のTMR(Tunneling GMR)素子に置き換わりつつあります。また、垂直記録対応ヘッドも徐々に増えています。



その他ヘッド

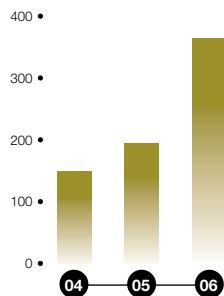
DVDやCDの読み書きに使用する光ピックアップ、サーマルプリンタに使用されるサーマルヘッド、フロッピーディスクドライブに使用される磁気ヘッドがあります。



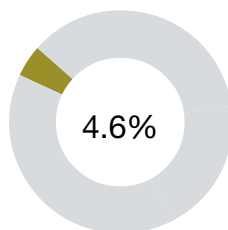
電子素材部品部門

その他電子部品

売上高推移
(億円)



売上高構成比
2006年3月期



当製品区分は上記3区分以外の電子素材部品部門のすべての製品を含みます。代表的な製品は、「有機ELディスプレイ」、「電波暗室」および「メカトロニクス」などです。

当製品区分の売上高は、363億76百万円(前期194億49百万円、前期比87.0%増)となりました。

これは、電波暗室および新規事業の売上高が増加したことが要因です。

有機ELディスプレイ

電流を流すと自ら発光する有機材料を利用したディスプレイです。



電波暗室

電磁波ノイズの測定のため、外部から遮断された電波環境を設定する構築物です。



メカトロニクス

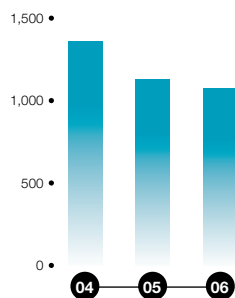
外販用の製造設備です。半導体製造工程で使われる「ロードポート」や「フリップチップボンダ」などがあります。



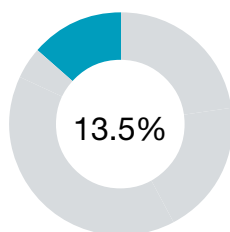
記録メディア製品部門



売上高推移
(億円)



売上高構成比
2006年3月期



当部門は「オーディオ・ビデオテープ」、「光メディア」および「その他」の3つで構成されます。

当部門の連結業績は、売上高1,074億30百万円(前期1,126億39百万円、前期比4.6%減)となりました。

「オーディオ・ビデオテープ」:売上高は前期比で減少しました。依然高い市場シェアを維持していますが、構造的に需要が縮小していることが要因です。

「光メディア」:売上高は前期比で増加しました。CD-Rの総需要は既にピークを過ぎ、なだらかな減少傾向を示しています。需要減と値引きによるCD-Rの減収を、需要増が続くDVDの増収で吸収できました。

「その他」:売上高は前期比で減少しました。コンピュータ用データストレージテープのLTO*(Linear Tape-Open)は、需要増に伴い売上高が増加しましたが、レコーディング機器製品は選択と集中を進めたことで売上高が減少しました。

* Linear Tape-Open, LTO, LTOロゴ, Ultrium, Ultriumロゴは、Hewlett-Packard Ltd, IBM Corporation, Quantum Corporationの米国およびその他の国における商標です。

光メディア

一度だけ記録ができる追記型CDのCD-Rや、同じ直径12cmのサイズで記憶容量がCDの約7倍(4.7ギガバイト)のDVDがあります。また、次世代の光メディアのひとつであるブルーレイディスクも製品化しています。



その他

急激に増大する電子情報を保存するためにLTO(Linear Tape-Open)と呼ばれる規格のデータストレージテープを製品化しています。

